

品 目	ホスゲン及びこれを含有する製剤	メチルメルカプタン及びこれを含有する製剤
	ホスゲン	メチルメルカプタン
廃棄方法	<p>(1) アルカリ法  多量の水酸化ナトリウム水溶液（10%程度）に攪拌しながら少量ずつガスを吹き込み分解した後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉  ア 水酸化ナトリウム水溶液と急激に混合すると多量の熱を発生し、水溶液が飛散することがあるので注意する。  イ 中和時の pH は 8.5 以上とする。</p>	<p>(1) 酸化法  水酸化ナトリウム水溶液中へ徐々に吹き込んで処理した後、酸化剤（次亜塩素酸ナトリウム、さらし粉等）の水溶液を加えて酸化分解する。これに硫酸を加えて中和した後、多量の水を用いて希釈し、処理する。</p> <p>(2) 燃焼法  スクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>〈備考〉  ア 臭気が強いので、吹き込み速度は十分に抑えて行う。  イ スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。</p>
生成物		
検定法	吸光光度法 ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法
その他	<p>ア ガスは少量の吸入であっても危険なので注意する。  イ 作業の際には、必ず保護具を着用する。</p>	<p>作業の際には、必ず空気呼吸器その他の保護具を着用する。</p>

亜硝酸メチル及びこれを含有する製剤	2-アミノエタノール及びこれを含有する製剤
亜硝酸メチル	2-アミノエタノール
<p>(1) 燃焼法</p> <p>スクラバーを具備した焼却炉の火室に少量ずつ噴霧し、焼却する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>ア スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を使用する。</p> <p>イ スクラバーは、逆火防止装置及び熱しゃへい装置付きのものを使用する。</p>	<p>(1) 燃焼法</p> <p>ア そのまま、又は木粉（おが屑）等に吸収させて、スクラバーを具備した焼却炉で焼却する。</p> <p>イ 可燃性溶剤とともに、スクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法</p> <p>多量の水で希釈し、希硫酸を加えて中和後、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を用いる。</p>
ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 吸光光度法

塩化チオニル及びこれを含有する製剤	キノリン及びこれを含有する製剤
塩化チオニル	キノリン
<p>(1) アルカリ法</p> <p>多量のアルカリ水溶液（水酸化カルシウム、水酸化ナトリウム、炭酸ナトリウム等の水溶液）に攪拌しながら少量ずつ加えて、徐々に加水分解させた後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>アルカリ水溶液と急激に混合すると多量の熱を発生し、水溶液が飛散することがあるので注意する。</p>	<p>(1) 燃焼法</p> <p>ア 木粉（おが屑）、布切れ等の可燃物に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉を用いて少量ずつ焼却する。</p> <p>イ アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>ア 臭気が強いので、吹き込み速度は十分に抑えて行う。</p> <p>イ スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を用いる。</p>
ガスクロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法 吸光光度法

クロロアセチルクロライド及びこれを含有する製剤	2-クロロアニリン及びこれを含有する製剤
クロロアセチルクロライド	2-クロロアニリン
<p>(1) 燃焼法 可燃性溶剤とともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室に噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 多量の水で希釈し、水酸化ナトリウムを加えて中和後、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 イ 焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。</p>	<p>(1) 燃焼法 ア 木粉(おが屑)、布切れ等の可燃物に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉を用いて少量ずつ焼却する。 イ アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には、水酸化ナトリウム水溶液を用いる。</p>
ガスクロマトグラフ法 吸光光度法	ガスクロマトグラフ法

クロロ酢酸ナトリウム及びこれを含有する製剤	クロロプレン及びこれを含有する製剤
クロロ酢酸ナトリウム	クロロプレン
<p>(1) 燃焼法 メタノールとともにアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室に噴霧し、焼却する。</p> <p>(2) 活性汚泥法 多量の水で希釈し、活性汚泥で処理する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 イ 焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。</p>	<p>(1) 燃焼法 ア 木粉（おが屑）等の可燃物に吸収さて、スクラバーを具備した焼却炉で少量ずつ燃焼させる。 イ アフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室に可燃性溶剤とともに噴霧し、焼却する。</p> <p>〈備考〉 ア スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。 イ 焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。</p>
ガスクロマトグラフ法 高速液体クロマトグラフ法	ガスクロマトグラフ法